

「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。希望は私たちに欺くことはありません」

ローマの信徒への手紙 5章 3-5節

私たちがこの世を生きると、私たちは何度も何度も苦難や試練に遭遇します。その度、私たちはなんでこのような苦しみや悲しみを味わわなければならないのかと私たちは嘆きます。そして、その苦難を乗り越える度に、私たちはこのような辛い思いは二度と経験したくないと私たちは願うのです。

しかし、苦難や試練は私たちにとって無駄で全く意味もないものなのでしょうか？

・私の友人の長男 錬君

私の友人は最初に生まれてきた男の子に、本日の聖書の箇所から錬という名前を付けました。この錬君は脳骨症という病気で、手足も言葉も脳も発達がままならないのです。待ちに待った最初の男の子が障害を持って生まれてきた。初めは驚き、悲しんだことでしょう。

そんなある日、彼らはエドナ・マシミラの「天国の特別な子ども」という作品に出会いました。その詩の最後に、こんな言葉があります。

「天から授けられたこの子によって、ますます強い信仰と豊かな愛を頂くようになるでしょう。やがて、二人は自分たちに与えられた特別の神のおぼし召しを悟るようになるでしょう。神から贈られたこの子を育てることによって、柔和で穏やかなこの尊い授かりものこそ、天から授かった特別な子どもなのです」

・私の長男 祐

私の長男 祐は現在高校1年生です。彼は錬君とは異なり、この世的に見れば健全な子どもとして生まれてきました。しかし、彼は幼いころから小児喘息がひどかった為に、私たち夫婦は頻りに夜中に病院に連れていかなければなりませんでした。なぜこのような体質に生まれたのかと私たちは嘆くことも何度もありました。しかし、弱さを抱えた彼がいることによって、私の家庭はいつも互いを思いやる優しさに満ち溢れていました。

・あるがままのお子さんを愛して

他の子どもたちとお子さんを比較するのではなく、またこの世の尺度でお子さんの価値を判断するのではなく、神様から与えられた尊い存在として、あるがままのお子さんを心から愛して下さい。その事によって、必ず希望と平安が与えられます。